

審査の結果の要旨

氏名 シリスリサク ティアムスン

本論文は近年ユネスコによって取り上げられ保全勧告文草案が検討されるなど、世界的に注目を集めている「歴史的都市景観」に関して、現時点におけるその概念構成を整理し、その思想をタイにおけるもっとも特徴的な歴史的都市景観とすることができるバンコク都心部の景観にあてはめて、その有効性を検討したものである。

論文は7つの章から成っている。巻末に具体的な参考文献を掲載している。

第1章は、序説であり、研究の枠組みと研究手法を述べている。

第2章は、都市保全の活動全体の歴史を概観し、そのなかにおいて新しい概念である歴史的都市景観という考え方がどのようにして生成し、今日に至っているのかを明らかにしている。とりわけ、文化的景観および景観アセスメントとの関連において、歴史的都市景観という概念が動的な保全において必要となってくる事情を明らかにしている。

第3章から第6章までは、歴史的都市景観の考え方をタイの首都バンコク都心に適用して、その有効性を検証したケーススタディの部分である。

第3章は、バンコクの都市発展の歴史を概観し、主要な都市景観のイメージがいかに形成されているのかに関して、バンコク居住者および来訪者を対象とした調査を実施した結果を述べている。歴史的都市景観は主要な景観要素の組み合わせにとどまらず、その変化をもたらす居住者等の関係者との関連の中で理解されていることを明らかにしている。したがって、歴史的都市景観を論じる際には、物的環境のみならず社会的環境の構成要素を明らかにする必要があることを示している。さらに、バンコク都心の主要な街路景観を広範囲に記録し、その変化のメカニズムを明らかにするための構成要素分析を行っている。

第4章は、バンコクにおいて都市景観を保全するための制度的な枠組みを明らかにすることを目的としている。タイにおいて景観保全の運動の生成の歴史を総括し、そこにおいて文化的景観という概念が形成されてきた過程を明らかにしている。さらに、景観保全のための制度が整備されていった経緯を、運動との関係で明らかにしている。

第5章は、バンコクにおける環境影響評価の制度とその運用の実際を明らかにし、そこにおいて景観関連の影響評価が実施されるプロセスを明示している。その中で、景観上の完全性（ビジュアル・インテグリティ）の考え方の重要性を示し、景観上の完全性を指標にして歴史的都市景観の評価が可能であることを論証している。

加えて、現時点におけるタイにおける機構改革の実際について触れ、景観関連の環境影

響評価の手法の今後のあり方を展望し、歴史的な地区であるサイアム・プラザを事例に具体的な景観影響評価の検討を行っている。

第6章は、住民参加型で実施される景観影響評価の実験的適用をチャイナタウンにおいて行ったケースを詳説し、歴史的都市景観が住民側の意識のなかで形成されるプロセスが、保全の様態を決定することを示し、上向型の合意形成と下降型の意志決定の相互作用によって歴史的都市景観の実体とその保全方法が一体的に定められることを明らかにしている。

以上、本論文はユネスコを中心に現在ひろく探求されつつある歴史的都市景観の保全方法に関して、わが国ではじめて総括的な概要を提示し、その概念を明らかにすることをおして都市保全の新しい局面を切り開いた論文として評価できる。さらに、ここで明らかにした概念をバンコクに適用することによってその有効性を立証しており、その有用性は高いといえる。

よって本論文は博士（工学）の学位申請論文として合格と認められる。